

昭島市市制施行 70周年記念誌 2024

昭和から平成・令和へと市民の皆様とともに歩んできた70年の歴史



昭島市
市制施行
70周年

令和6(2024)年8月発行

昭島市は、昭和29年5月に昭和町と拝島村が合併し、東京都で7番目の市として誕生しました。当時3万6千人であった人口は、現在では11万4千人を超え、安全で利便性に富んだ都市基盤と、水と緑の自然環境が調和した快適な住宅都市として、着実に発展を続けております。これまでの昭島市の発展に御尽力を頂いた皆様に心より感謝申し上げます。

今後も、私たちのふるさと昭島を次代に引き継いでいくべく、20年後、30年後、その先の社会を見据え、市民の皆様とともに「水と緑が育む ふるさと昭島」、そして、多様性と意外性に富んだ、笑顔があふれる楽しいまち昭島の確たる実現に向け、力を尽くしてまいります。

昭島市長 臼井 伸介

昭島市のあゆみ

目次

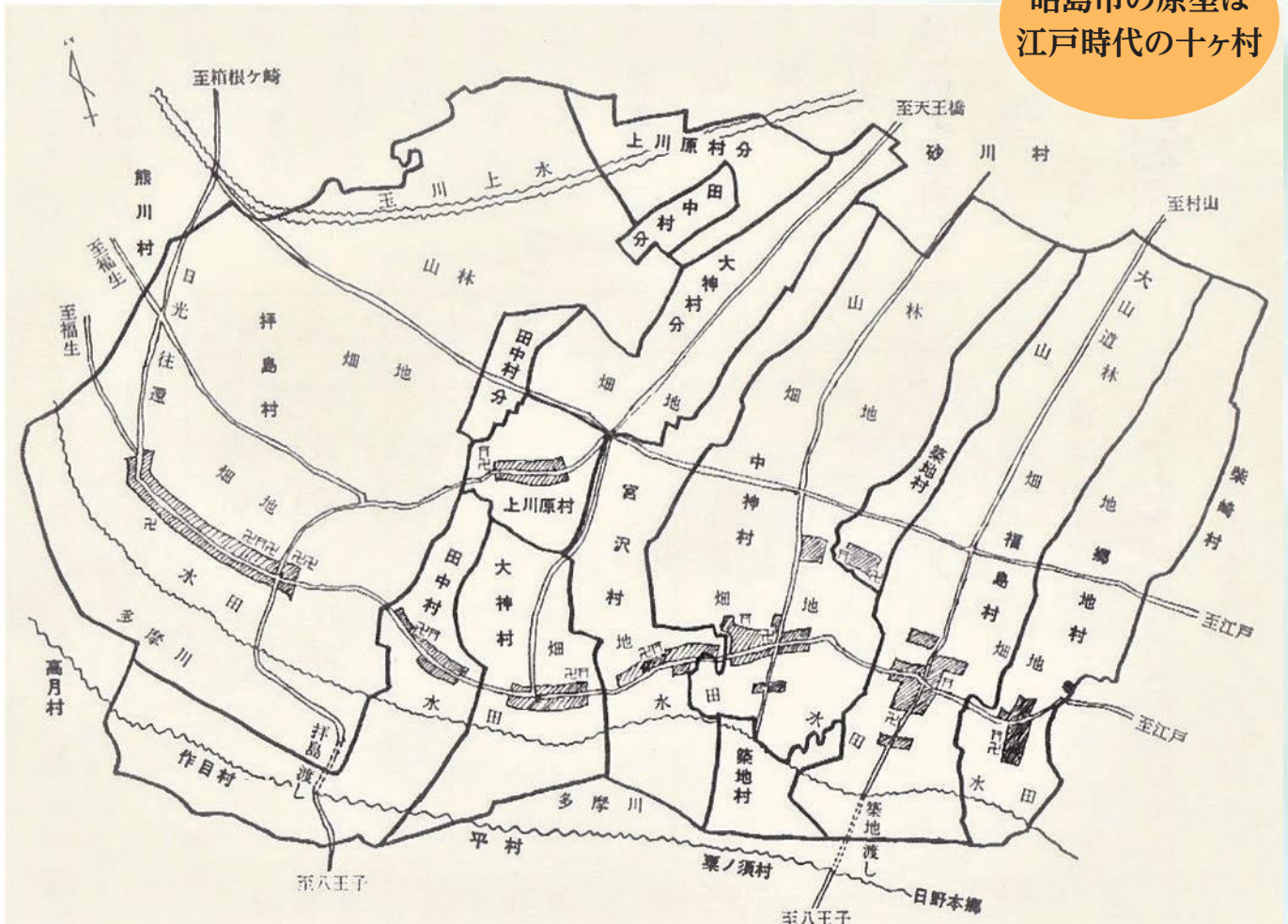
1. 市制施行前の昭島市	1
(1) 昭島市の原型	1
(2) 昭島市誕生までの系譜	2
2. 市制施行	2
(1) 第一期(市制施行後10年)	2
① 時代背景	3
② 合併までの経過	4
③ 一か月遅れた合併	4
④ 揺籃期(ようらんき)	5
⑤ 基地の存在	5
⑥ 市制の象徴	5
ドキュメント アキシマクジラ	
① 昭和36年夏、八高線多摩川鉄橋下	5
② クジラと判明	5
③ データ・アキシマクジラ	6
(2) 第二期(昭和時代後半)	6
① 10万人都市へ	8
② 公害	8
③ 集団移転	8
④ 立川基地跡地問題	8
① 昭島市の宝、自慢	8
② 最初から地下水100%	8
③ 水源は20本の深井戸	9
④ なぜ、おいしいか	9
⑤ 深層地下水はどこから	9
深層地下水 100%の水道水 おいしい昭島の水	
(3) 第三期(平成・令和)	10
① 安定期	11
② 二度目の市役所移転	11
③ 新設から更新へ	11
④ 基地跡地には国際法務総合センター	12
⑤ 新型コロナウイルス感染症	12
駅の多い町 昭島 拝島駅は4路線乗入れ	
① 今年は青梅鉄道開業130年	12
② 拝島駅は多摩有数のターミナル	13

1. 市制施行前の昭島市

(1) 昭島市の原型

東京都北多摩郡昭和町と拝島村が合併して誕生した昭島市。
その原型は江戸時代にあった十の村にあります。

昭島市の原型は
江戸時代の十ヶ村



昭島市域の近世村落概略図(昭島市史編さん委員会『地方文書目録Ⅱ』昭和53年から転載)

近世(江戸時代)にあった10の村々は、ほとんどの村が多摩川方面から北へ向かって短冊状に広がっています。

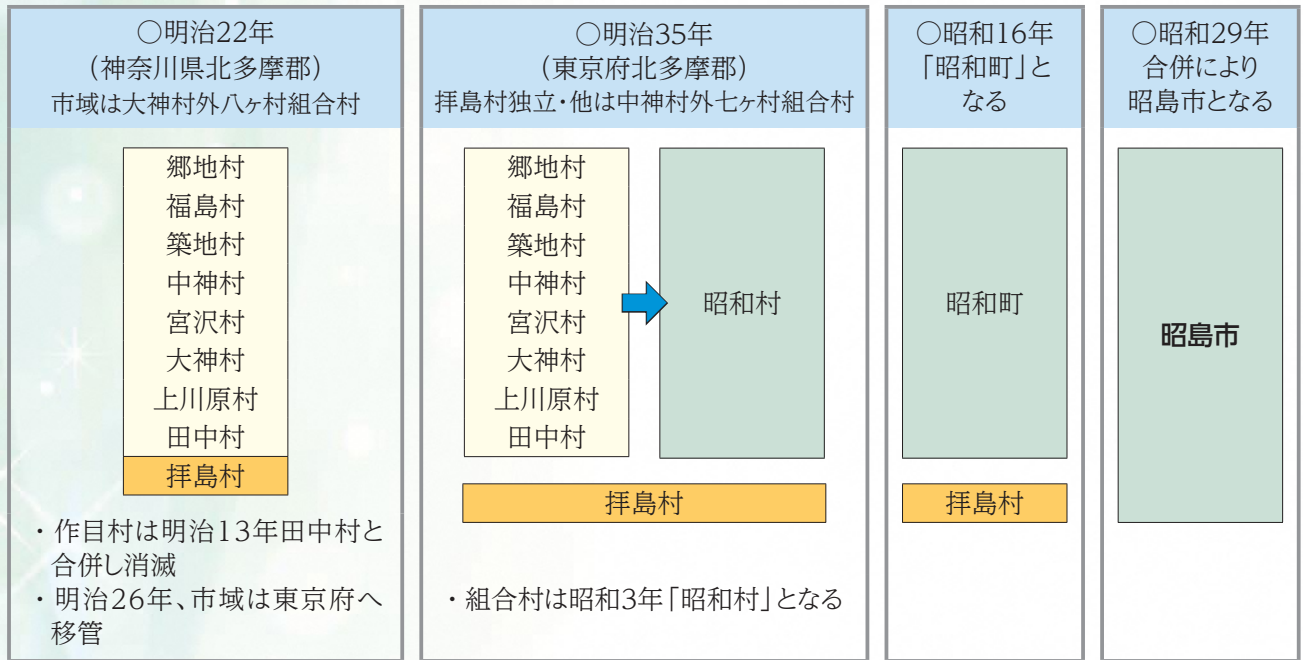
一番東側の①郷地(ごうち)の由来は大六天社が周囲よりも高い場所「高地」だったので、あるいは「耕地」が転用した、②福島(ふくじま)は江戸時代の初代地頭の名前にちなむ説、③築地(ついじ)は多摩川氾濫により新たに築き立てた地という意味から、④中神(なかがみ)は熊野神社を中の宮というところから、⑤宮沢(みやざわ)は諏訪神社の湧水・宮の沢から、⑥大神(おおがみ)は古来この辺りを「鴨の里」と称し、その「大鴨」が転じたという説、⑦上川原(じょうがわら)は多摩川氾濫で上の地に集落を形成したことから、⑧田中(たなか)は文字どおりから、⑨作目(さくめ)は不明、⑩拝島(はいじま)は多摩川上流から中州に漂着した大日如来像を村人たちが礼拝したことから、などなど各村の名前の由来はいずれも諸説あります。

【現在の町名】

令和6(2024)年5月現在、作目村以外の9つの村名は現在も町名として残り、別に住居表示で次の町名が誕生しています。玉川町、朝日町、昭和町、東町、松原町、つつじが丘、緑町、美堀町、武蔵野、もくせいの杜、代官山(実施順)

「市の木 もくせい」
昭和49(1974)年5月1日
市制施行20周年を記念して制定

(2) 昭島市誕生までの系譜



2. 市制施行

(1) 第一期(市制施行後10年)



市章

黒字が「昭」を表し、内側の白字の四つの「マ」が「島」を表しています。そして円によるまとまりによって「和」と「団結」を象徴しています。

昭和29(1954)年

- 5月 1日 「昭島市」誕生
- 20日 「昭島市広報」第1号発行
- 21日 初の市長選。伊藤栄彦氏当選
- 27日 公募による市章決まる
- 7月 1日 警視庁昭島警察署設置される
- 11月 市営水道供給開始

昭和30(1955)年

- 1月 1日 第1回新春駅伝競走大会
- 3月12日 拝島橋(初代)開通
- 4月29日 初の市議会議員選挙(定数26)

昭和31(1956)年

- 3月10日 財政再建団体に指定(34年度末まで)
- 10月21日 第2回市長選。中村敬允氏当選

昭和32(1957)年

- 9月 1日 初の市営、堀向保育園が開園
- 10月21日 市役所新庁舎完成(現昭和町)
- 11月22日 東部出張所開設(現昭和公園内)

昭和33(1958)年

- 3月 塵芥焼却場(現田中町)が稼働
- 4月 東・西が統合し昭島市消防団発足



拝島橋竣工(昭和30年3月12日)



初代市役所(昭和町役場当時:中神町)

「市の花 つつじ」

昭和49(1974)年5月1日
市制施行20周年を記念して制定

昭和34(1959)年

- 3月 10日 市営「公益質屋」(現昭和町)開設
- 4月 立川市と共同のし尿処理場稼働
- 10月 1日 青梅線昭和前駅が昭島駅と改称

昭和35(1960)年

- 2月 22日 水道事務所完成(現朝日町)
- 4月 1日 常設消防を東京消防庁に委託
- 12月 8日 拝島町堀向自治連合会が横田基地騒音防止を請願

昭和36(1961)年

- 8月 20日 「アキシマクジラ」発見される
- 11月 22日 第1回工業生産品展開催

昭和37(1962)年

- 3月 27日 昭島電報電話局開局・電話自動化
- 4月 1日 「交通安全都市」を宣言
- 6月 25日 昭島ガス株式会社創立

昭和38(1963)年

- 3月 多摩初の住宅地区改良法適用住宅が完成(中神町昭和郷)
- 4月 収集車によるごみ収集開始

昭和39(1964)年

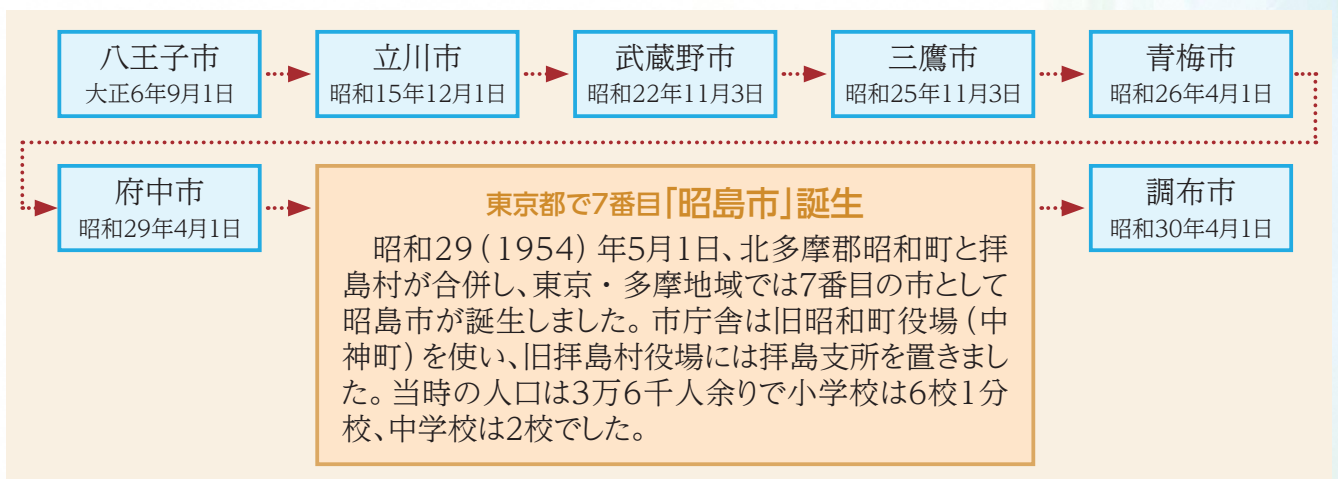
- 2月 昭島市農業協同組合が発足
- 3月 7日 中神土地区画整理事業に事業認可
- 9月 14日 拝島町堀向の二自治会が横田基地騒音による集団移転を申請
- 10月 4日 第4回市長選。新藤元義氏当選
- 10月 8日 東京オリンピック聖火が市内を通過



アキシマクジラ
尾部から見た全身骨格。手前は石膏の入れ物
(昭和36.9.1。鷹取健氏撮影)



東京オリンピック聖火リレー



① 時代背景

戦後の混乱も落ち着き、主権を回復した日本政府は昭和28(1953)年9月、「町村合併促進法」を公布しました。自治体規模の適正化と地方自治体の基盤整備・合理化がねらいで、町村は人口8千人規模に、市制施行は3万人を目安とするものでした。その結果、昭和30(1955)年までに全国の自治体数は約三分の一まで減少し、後に「昭和の大合併」と名付けられました。昭島市の誕生もこの時期の出来事です。



「ちかっぱー」

令和元(2019)年8月に、昭島市公式キャラクターに認定

② 合併までの経過

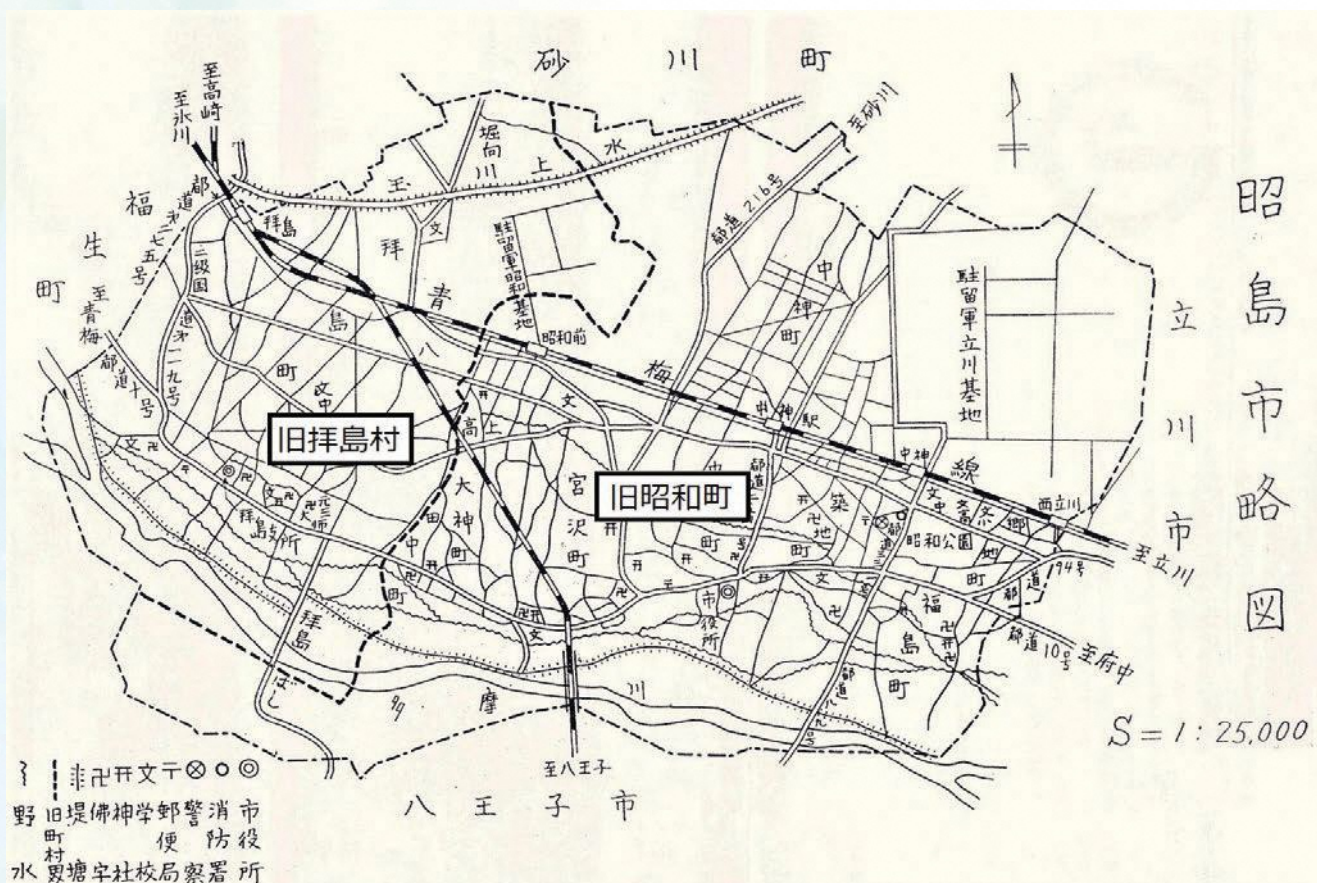
直前の国勢調査で人口2万4千人を超えていた昭和町は、合併による市制施行構想を早くから持っていたと見られ、町村合併促進法施行によってより具体的な動きとなりました。昭和町議会内部には立川市と合併すべきとの意見もありましたが、拝島村との合併に意見集約され、昭和29(1954)年2月17日に拝島村へ申し入れています。

一方、その前後に拝島村は福生町からの合併申し出も受けていたため、拝島村は昭和・拝島・福生の三町村による市制施行を希望したものの、昭和町、福生町はともにそれを望まず、結局は昭和町と拝島村の合併で準備が進みました。

同年3月3日には昭和町・拝島村5名ずつの合同委員会を開催し、市の名称、対等合併であること、施行日を4月1日とすることなどを協議しました。

その後、それぞれ地区説明会を経て昭和町議会は3月13日に、拝島村議会は3月14日に臨時会を開催し、合併議案を可決しました(昭和町は賛成多数、拝島村は全会一致)。そして、昭和町町長と拝島村村長は連名で3月15日に「昭和町 拝島村を廃し昭島市制施行申請書」を東京都知事へ提出しました。

昭島市選定の理由
両町村住民の恒久的な和合と団結を念願とし、且、合併により一となることを記念して、ここに昭和町の昭和と拝島村の島をとり昭島(アキシマ)市と選定した次第であります。
(市制施行申請書より)



合併時の昭島市全図(東京都『東京町村合併誌』、昭和32年より) 東部分の旧昭和町は面積約68%、人口約76%を占め、旧拝島村は面積約32%、人口約24%でした。

③ 一か月遅れた合併

ところが、この市制施行申請後に昭和町の一部、立川寄りの住民などから立川市との合併を望んで強い反対運動が起こり、都議会に陳情書も提出されました。このため、北多摩郡選出の都議団が調停のために昭和町に入りましたが、不調に終わりました。こうして最終的には都議会の議決、都知事の処分を経て5月1日付の市制施行となりました。当初の予定から一か月遅れた昭島市誕生となりました。



「アッキー&アイラン」
平成26(2014)年に、昭島市
公式キャラクターに認定

④ 揺籃期（ようらんき）

※揺籃期…物事の発達の初めの時代

この市制施行直後の10年間は、「行政的にも財政的にも揺籃期ともいうべき時期」（昭和60年『昭島市議会史』）でした。厳しい財政状況に関しては、地方財政法の適用などをめぐって議論が分かれ、合併解消にもつながりかねない動きもありました。合併時における認識の違いが遠因でした。その財政確立のために市営競輪の開催、工場誘致条例制定などの努力が続けられたほか、戦時中に建設され、市に引き継がれた八清住宅や旧軍用地の戦後処理に労力が割かれたのもこの時期です。

⑤ 基地の存在

一方、東の立川基地、北の横田基地に挟まれ、さらに中央に昭和基地が存在した昭島市民は、早くから井戸汚染などで悩まされていました。中でも横田基地を離発着する米軍機の騒音問題は、やがて大きな動きに発展していくことになります。

⑥ 市制の象徴

市制施行を象徴する出来事もありました。戦時中に工事が中断し、ようやく昭和30(1955)年3月に開通した拝島橋（初代）です。待ち望んだ多摩川架橋の実現です。もう一つ、仮駅を経て昭和13(1938)年12月に開業していた青梅線「昭和前駅」が昭和34(1959)年10月に改称し、市名と同じ「昭島駅」になりました。

ドキュメント アキシマクジラ

① 昭和36年夏、八高線多摩川鉄橋下

上流に小河内ダムが昭和32(1957)年に完成しましたが、多摩川の大水は相変わらずでした。昭和36(1961)年6月28日にも増水し、着工していた多摩大橋では橋脚の大部分が水没するほどでした。大水は川底を洗い、思

わぬ光景が出現することがありますが・・・

それから2か月余りたった8月20日(日)、玉川小学校教員の田島政人さん(34歳)は、長男と一緒にハイキング気分で八高線鉄橋下流の河原へ。そして「なめ土」と呼ばれる岩盤で「大きな灰色の塊(かたまり)」を見つけました。以前から化石採集をしていたため、田島さんは動物の骨だと直感。最初は「恐竜の骨ではないか」「いや、象かもしれない」と思ったようです。

「とてつもない、巨大な骨だ」。その日は大きな石で現場を隠し、空をも飛ぶような気分で帰宅しました。翌日以降も気になり、何度か現場へ行きました。

化石発見を家族以外に話したのは8月26日(土)の夏休み登校日が初めて。重大さに気づいた同僚の手配で発掘・調査体制が急きょ組まれました。ここから田島さんはもちろん各学校の教員や教育委員会は多忙をきわめました。8月28日(月)は成隣小学校集合で、初の調査日。「骨のぬしは誰か」が最大の関心事で、記録は二の次だったようです。

② クジラと判明

「おそらくクジラの骨でしょう」。29日(火)に訪れた国立音大・甲野勇教授から初めてクジラの名前が登場。この日までに化石の大きな部分は姿を見せました。教育委員会は河原にテントを張り、寝ずの番を開始。8月30日(水)、新聞で報道されました。

当時の中村市長も現場へ。国立科学博物館の尾崎博博士が現地で記者会見。「これだけそろった化石は日本初。500万年から200万年前のクジラ」。



化石発見を伝える朝日新聞
(昭和36年8月30日付。顔写真は発見者の
田島政人氏)

渋谷区立中学校の理科教員だった鷹取健さん(26歳)は、テレビ報道で知り調査に参加。カメラを持っていたのもっぱら記録係に。「小学生らが勝手に掘っていて心配だった」「埋まっていた土は硬くて金づち・のみを使った」「掘りだした化石はモッコや小型トラックで慎重に成隣小学校へ運んだ」。

9月3日(日)午後3時、現地作業が終了。夕方から大雨となり、多摩川は増水し発見現場は濁流の中に沈んでしまいました。きわどいタイミングでした。

(参考:田島政人『アキシマクジラ物語』1994年、けやき出版)

③ データ・アキシマクジラ

○クジラ = コククジラ属の新種

学名は、エスクリクティウス アキシマエンシス

(学名:Eschrichtius akishimaensis 和名:アキシマクジラ)

○産出地点 = 八高線多摩川橋梁No.11、橋脚下流30m付近。約200万年前の上総層群小宮層から。その頃は東京の大半は海で、昭島は比較的陸に近い浅瀬だったと推定。

○大きさ = 体長13.5mと推定される、ほぼ全身の化石

○化石の現状 = アキシマエンシス(つつじが丘三丁目)で保管・一部展示(頭蓋、右下顎骨などは群馬県立自然史博物館保管)

※アキシマクジラ化石標本は、平成31(2019)年1月17日に昭島市天然記念物に指定されました。

(1) 第二期(昭和時代後半)

昭和40(1965)年

5月 1日 初の住居表示実施(玉川町・朝日町・昭和町が誕生)

昭和41(1966)年

5月 2日 福祉会館が完成(玉川町)

9月 25日 台風26号。災害救助法適用

12月 6日 多摩大橋(初代)開通

昭和42(1967)年

4月 1日 市の事務組織体制が部単位を導入

8月 16日 初の横断歩道橋完成(成隣小前)

昭和43(1968)年

3月 24日 堀向住民の東ノ岡団地への集団移転始まる

5月 14日 学校給食共同調理場が完成し、調理場方式の学校給食が始まる

5月 15日 西武拝島線開業

昭和44(1969)年

8月 29日 米軍昭和基地が全面返還される

11月 1日 第1回産業まつり開催

昭和45(1970)年

10月 28日 用水路などでカドミウム汚染判明

昭和46(1971)年

3月 28日 昭和公園にD51(デゴイチ)到着

11月 21日 多摩市町村でノーカーデー実施

昭和47(1972)年

1月 10日 米軍基地「関東計画(米軍基地の横田基地集約化)」が明らかになる



多摩大橋(初代)



昭和公園にD51を設置

昭和48(1973)年

- 5月 12日 昭島市民図書館開館(東町)
- 7月 21日 市民プール開設(現宮沢町)
- 8月 25日 **第1回市民納涼の集い開催(現在の昭島市民くじら祭)**

昭和49(1974)年

- 3月 粗大ごみ等破碎処理施設完成
- 3月 26日 昭島市商工会設立

昭和50(1975)年

- 8月 1日 福祉作業所開設(旧公益質屋跡地)
- 10月 23日 高齢者事業団発足(現社団法人昭島市シルバー人材センター)

昭和51(1976)年

- 9月 1日 個人住宅防音工事の受付開始
- 10月 17日 第7回市長選。皿島忍氏当選

昭和52(1977)年

- 6月 建設省が「昭和記念公園」構想公表
- 9月 21日 立川基地跡地利用の「地元案」決定
- 11月 30日 **立川基地が全面返還される**

昭和53(1978)年

- 5月 20日 **都下水道局「多摩川上流処理場」(現水再生センター)が完成**
- 11月 1日 『昭島市史』刊行

昭和55(1980)年

- 11月 三多摩地域廃棄物広域処分組合設立

昭和56(1981)年

- 3月 西武拝島ハイツ、つつじが丘ハイツ入居開始

昭和57(1982)年

- 7月 3日 **市民会館・公民館開館(つつじが丘)**
- 7月 10日 市議会が「非核平和都市宣言」決議

昭和58(1983)年

- 2月 19日 奥多摩バイパスが全線開通
- 7月 24日 第1回子どもの主張コンクール開催
- 8月 7日 第1回核と平和を考える市民の集い
- 10月 26日 国営昭和記念公園が一部開園

昭和59(1984)年

- 4月 1日 谷戸沢処分場へ可燃ごみの焼却灰・破碎処理された不燃ごみ等の搬入開始
- 10月 14日 第9回市長選。伊藤徳彦氏当選

昭和60(1985)年

- 11月 23日 第1回青少年フェスティバル開催

昭和62(1987)年

- 4月 9日 人口が10万人に達する



市民納涼の集い開催
(現在の昭島市民くじら祭)



米軍立川基地返還式



「多摩川上流処理場」
(現水再生センター)



市民会館・公民館開館(つつじが丘)

① 10万人都市へ

昭和40(1965)年からのおよそ25年間は、一言でいえば“成長期”にあたります。相次ぐ都営住宅建設などもあり、6万人弱(昭和40年国勢調査)であった人口は増え続け、10万人都市への仲間入りを果たしました(昭和62(1987)年4月。多摩地区15番目)。この間、中神小学校など小学校6校、中学校3校の建設をはじめとする各種都市基盤整備に追われました。

② 公害

急激ともいえる都市化は、一方でひずみを生じることになります。全国の都市部などで見られた、いわゆる公害問題です。昭島では昭和45(1970)年10月に用水路や収穫されたお米から有害な重金属・カドミウムが検出されました。また、自家用車の普及もあって大気汚染が深刻となり、ノーカーデーが提唱されました。

③ 集団移転

昭島の宿命といっても過言ではない基地問題も大きな動きを見せました。昭和39(1964)年12月、横田基地騒音に苦しむ拝島町堀向の二自治会は集団での移転を要請。市・市議会一体の支援活動もあって、国は昭和41(1966)年7月に「防衛施設周辺整備法」を制定しました。こうして全国初のケースとして、市内の東ノ岡団地(現宮沢町)などへ570世帯余りが移転しました。



用水路視察の様子

④ 立川基地跡地問題

米軍昭和基地の全面返還に続き、米軍基地の横田基地集約化(関東計画)により立川基地の返還が具体化しました。その跡地利用に関しては、「三分割・有償払下げ方式反対」でおおむね一致し、昭島市は立川市、東京都とともに地元利用計画案を策定しました。ところが、自衛隊の移駐問題や昭和記念公園建設構想などが複雑にからみ議論が分かれました。こうした中、昭和52(1977)年11月に立川基地は全面返還され、昭和記念公園などが整備されました。しかし、昭島地区は留保地区となり、未整備のまま残りました。



立川基地跡地に開設された
国営昭和記念公園(もくせいの杜3丁目)

しんそう

深層地下水

100%の水道水

おいしい昭島の水

① 昭島市の宝、自慢

昭島市の宝、自慢といえば何でしょうか。おそらく大多数の市民は「地下水100%の水道水」と答えるでしょう。そのおいしい水のPR担当が市内4駅の駅前に立っているかわいいかっぱです。「地下水」と「かっぱ」

に由来する昭島市公式キャラクター「ちかっぱー」で、そこは水道水の給水スポットになっています(右の写真)。

② 最初から地下水100%

市制施行前にも簡易的な水道が一部地区にありました。昭島市は昭和29(1954)年6月に水道事業の認可を受け、11月から給水を開始しました。当初の給水人口は2万人でした。



中神駅北口の給水スポット
ちかっぱーが目印

現在の水道部庁舎(朝日町)にある東部一号水源井は最初の深井戸で、昭島市水道の原点です。このように、事業開始から一貫して深い井戸から汲み上げる地下水のみを水源としています。東京都の区市町村で、地下水(深層地下水)のみを水源としている自治体は昭島市だけです。

なお、多摩地区の自治体は順次、東京都の水道事業に一元化されていきましたが、昭島市は独自の水道事業を続けています。

③ 水源は20本の深井戸

水源である深井戸はいずれも青梅線以南に分布し、八高線を境に東部系と西部系に分かれています。東部系には14、西部系には6つの水源井(深井戸)があります。井戸の深さはさまざまで、おおよそ110メートルから250メートル程度です。それぞれの井戸の中に水中ポンプを設置して地下水を汲み上げているのです。



最初の井戸工事
(昭和29年7月 現朝日町)

④ なぜ、おいしいか

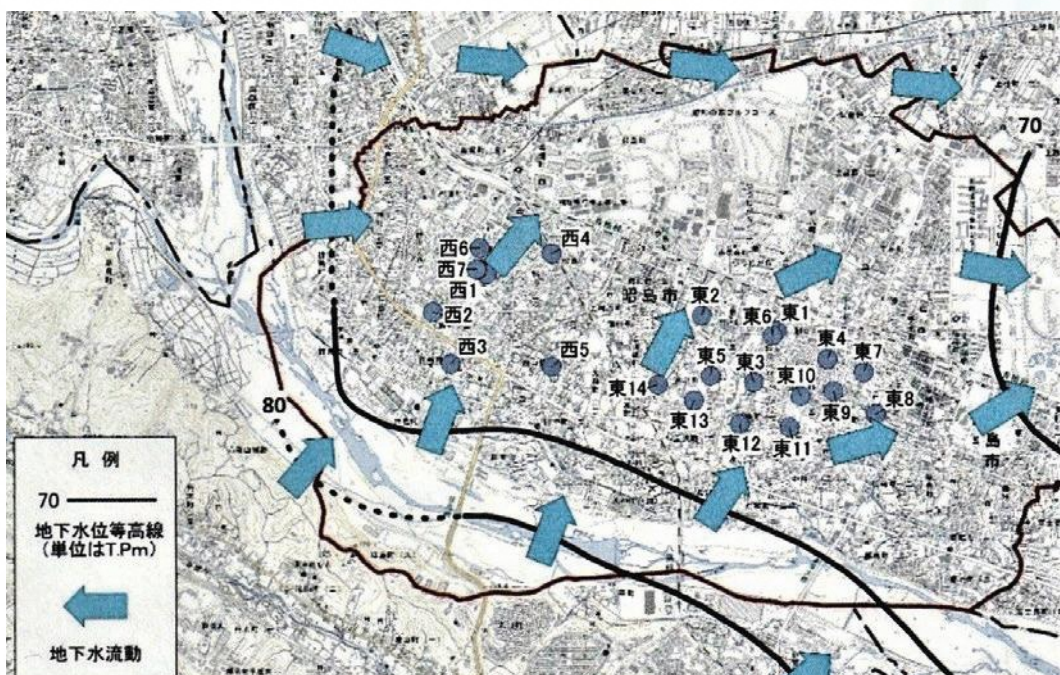
昭島市の水道は、地下深くの帯水層を流れる深層地下水を汲み上げており、その深層地下水は、山に降った雨や雪が約10~50年以上という長い年月をかけて昭島市の地下までしみ込んだものです。

このしみ込む過程で土壌がフィルターの役割を果たし、不純物を取り除くとともに炭酸やミネラル成分等を溶かしながらしみ込みます。こうして流れてきた深層地下水を利用する昭島の水道は、ミネラルウォーターと変わらないおいしさなのです。

⑤ 深層地下水はどこから

昭島の水道水(深層地下水)はどこから流れているのでしょうか。昭島市はその疑問などを明らかにするため、2回にわたって地下水の流動調査を行いました。2回とも、ほぼ同じ報告です。

令和3年度実施の昭島市水道部『深層地下水流動調査報告書』には①昭島市の水道水は、関東平野の土台をなす地層である上総(かずさ)層群(=アキシマクジラ骨格産出)の主に東久留米層にある帯水層から深層地下水を汲み上げている、②深層地下水の起源地(かん養源)は、昭島市の南から西に分布する山地や丘陵地である、とあります。これは、深層地下水が八王子市側(加住丘陵付近)から昭島市へ向かって流れていることを示唆しています。



「昭島市及びその周辺の地下水位等高線図」の一部。➡ が地下水流動
(昭島市水道部『深層地下水流動調査』報告書概要版、令和4年3月より)

(3) 第三期(平成・令和)

平成元(1989)年

12月 26日 中神駅橋上駅舎が完成

平成3(1991)年

2月 8日 初の地区計画「郷地・福島地区地区計画」決定

平成4(1992)年

4月 17日 新幹線電車図書館オープン

8月 16日 新拝島橋(上り線)開通式

平成5(1993)年

4月 25日 多摩東京移管百周年記念「TAMALIFE21」が昭和記念公園で開催

平成6(1994)年

4月 1日 「広報あきしま」が全戸配布に

平成7(1995)年

3月 「昭島八景」決まる

8月 5日 岩手県岩泉町との国内交流事業開始

平成8(1996)年

9月 市域でCATV放送開始

10月 13日 第12回市長選。北川穰一氏当選

平成9(1997)年

5月 6日 市役所が新庁舎に移転(田中町)

平成10(1998)年

12月 1日 昭島消防署開設(松原町)

平成12(2000)年

10月 1日 昭島市がホームページを開設

平成13(2001)年

10月 1日 保健福祉センター「あいぽっく」開設(旧市役所、昭和町)

12月 1日 コミュニティバス「Aバス」が運行開始

平成15(2003)年

1月 24日 「諏訪神社」「龍津寺」が東京の名湧水57選に選ばれる

平成16(2004)年

7月 1日 総合スポーツセンター開設(東町)

10月 1日 ごみの戸別収集始まる

平成19(2007)年

8月 23日 拝島駅橋上駅舎開業

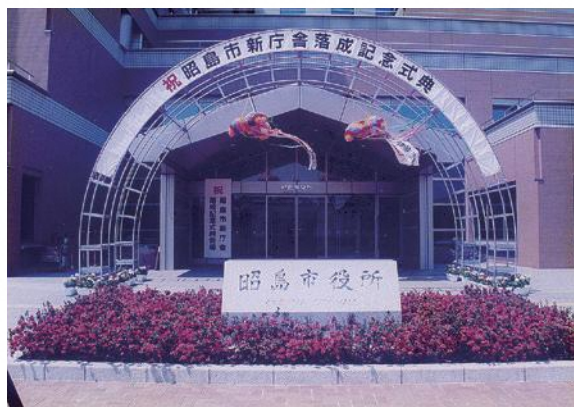
10月 27日 多摩大橋の新橋開通

平成21(2009)年

4月 1日 初の図書館相互利用が始まる(最初はあきる野市)



新幹線電車図書館オープン直前



新庁舎落成記念式典



Aバス



拝島駅橋上駅舎

平成23(2011)年

- 2月 1日 昭島観光まちづくり協会設立
- 3月 11日 東日本大震災
- 4月 1日 環境コミュニケーションセンターとエコ・パークが開設(美堀町)

平成27(2015)年

- 4月 1日 初の小学校統合(拝島第四小学校と拝島第一小学校の統合)

平成28(2016)年

- 10月 16日 第17回市長選。臼井伸介氏当選

平成29(2017)年

- 11月 27日 国際法務総合センター落成式

平成30(2018)年

- 12月 17日 第1回まちづくり企業サミット開催

令和元(2019)年

- 10月 15日 初のクラウドファンディング始まる(昭和公園D51修復)

令和2(2020)年

- 3月 28日 アキシマエンスシ(教育福祉総合センター)開館(つつじが丘)

令和3(2021)年

- 5月 25日 新型コロナウイルスワクチンの集団接種が始まる

令和5(2023)年

- 1月 9日 「はたちのつどい」開催
- 12月 9日 市制施行70周年記念プレ事業(平和事業)開催

令和6(2024)年

- 4月 学校給食共同調理場が新規開設



第1回まちづくり企業サミット
(会場:国際法務総合センター)



アキシマエンスシ



新学校給食共同調理場

① 安定期

激動の昭和が終わり、平成から令和へと時代は進みました。この間のおよそ35年間の昭島市は、70周年という節目でみると「安定期」という表現がふさわしいと思われます。

② 二度目の市役所移転

昭和32(1957)年に中神町の初代庁舎から昭和町に移転した市役所。そこは、合併当時のいきさつもあって市の中心地点でした。その後、平成9(1997)年には、学校建設予定地だった田中町一丁目に二度目の移転、これに合わせて西部出張所が廃止されました。

③ 新設から更新へ

人口もほとんど横ばいのこの期間、多くの公共施設などは新設から更新期に入りました。かつての福祉会館は市民交流センターへ、さらに現在は市民総合交流拠点施設への更新が進行しています。市民図書館も場所を移し、アキシマエンスシという複合施設に生まれ変わりました。また、昭和公園のD51のように、維持・補修にはクラウドファンディングという手法も導入しています。

一方で、拝島第一小学校と同第四小学校、つつじが丘北小学校と同南小学校の統合、奥多摩街道などでは道路横断陸橋の撤去という状況も起こりました。



化石のレプリカが迎えてくれるアキシマエンスは図書館と郷土資料室等の複合施設
(つつじが丘三丁目)

④ 基地跡地には国際法務総合センター

立川基地の返還時に残された昭島地区。東の玄関口ともいわれた跡地利用は論議をよびました。最終的には法務省の国際法務総合センターが開設され、同時に昭島市北部配水場や市立むさしの公園もできました。一部は民間利用も行われた一帯は、もくせいの杜という町名になりました。

⑤ 新型コロナウイルス感染症

令和になってまもなく、「新型コロナウイルス感染症」に翻弄されました。70年間の昭島市政でも例のない事態で、様々な対応に追われました。



コロナ「緊急事態宣言中」の商業施設は無人(令和2年4月12日)

駅の多い町 昭島 拝島駅は4路線乗入れ

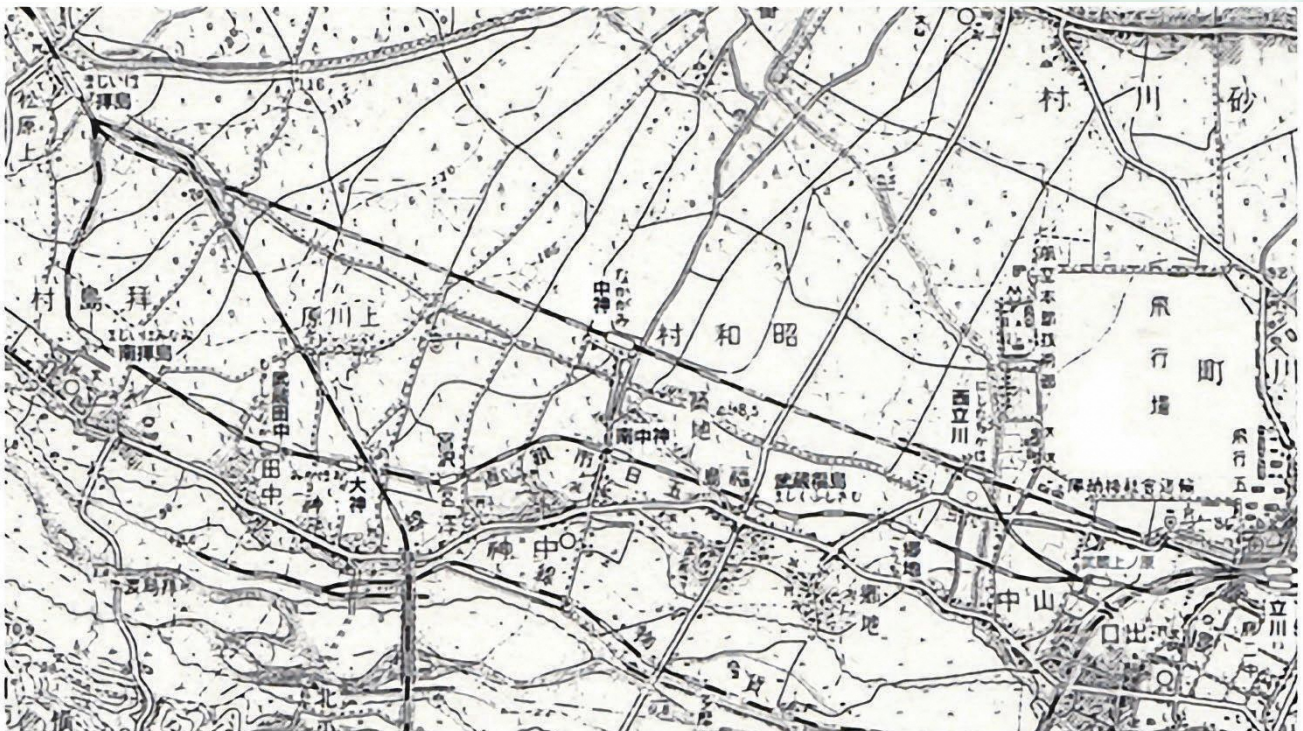
都心から35kmに位置する昭島市の特徴の一つが鉄道です。市域の中央を走る青梅線には、立川市境の西立川駅、東中神駅、中神駅、昭島駅、そして拝島駅があり、市域には5つもの駅があります。実は、戦前の一時期、市域には五日市鉄道があり、7つの駅がありました。つまり、最盛期には合計12の駅があったのです。

① 今年は青梅鉄道開業130年（現 JR 青梅線）

明治22(1889)年4月、新宿と立川を結ぶ甲武鉄道(現在のJR中央線)が開業すると、その鉄道に関わった人物や西多摩地方の有力者たちの間で青梅まで鉄道を敷こうという機運が高まりました。鉄道敷設の大きな目的は、青梅方面で産出される石灰の輸送でした。

最初は甲武鉄道の青梅延伸を求めましたが叶わず、自前の青梅鉄道株式会社を設立、明治27(1894)年11月19日に立川・青梅間(18.5km)が開業しました。

開業時の駅は立川、拝島、福生、羽村、小作、青梅の6駅です。こうして、今から130年前に昭島を初めて鉄道が走ったのです。



- 昭和10(1935)年当時の駅(昭和10.5万分の1地形図「青梅」に加筆)
- 青梅線(当時は青梅電気鉄道)には「西立川」「中神」「拝島」の3駅。この後に「昭和前」(現昭島)と「東中神」が加わり、現在と同じ5駅となる。
 - 青梅線よりも南を走る五日市鉄道の駅は立川、武蔵上ノ原(立川)に続き、「郷地」「武蔵福島」「南中神」「宮沢」「大神」「武蔵田中」「南拝島」の7駅です。
 - 八高線は昭和6(1931)年12月10日に八王子・東飯能間が開業し拝島駅に乗り入れ(当初は八高南線)、昭和9(1934)年に高崎までの全線が開通しています。

② 拝島駅は多摩有数のターミナル

青梅鉄道開業と同時に開設された拝島駅は、大正14(1925)年4月21日に五日市鉄道が、続いて昭和6(1931)年12月10日に八高線が乗り入れています。戦後も昭和43(1968)年5月15日に西武拝島線が乗り入れました。

現在の青梅線で別の路線が乗り入れているのは、起点の立川駅を除けば拝島駅のみです。また、4路線乗り入れというのは、例えば立川駅は中央線と青梅線、南武線、やや離れた多摩都市モノレールを加えても4路線、八王子駅も中央線、八高線、横浜線の3路線ですので、多摩を代表するターミナル駅といえます。



以前の拝島駅跨線橋

廃線となった五日市鉄道
五日市鉄道は大正14(1925)年4月21日に拝島・武蔵五日市間が開業。昭和5(1930)年7月13日に拝島から立川まで延伸し、市域には7つの駅ができました。





昭島市市制施行70周年記念誌2024

昭和から平成・令和へと市民の皆様とともに歩んできた70年の歴史

発行

昭島市
〒196-8511 東京都昭島市田中町1-17-1
☎042-544-5111(代表) FAX042-546-5496
<http://www.city.akishima.lg.jp/>

発行日

令和6(2024)年8月

企画・編集・制作

昭島市企画部企画政策課
昭島市教育委員会生涯学習部アキシマエンス管理課
